

エンパワーするNGO



京都 YWCA

9  
2020

YWCAは、キリスト教を基盤に、世界中の女性が言語や文化の壁を越えて力を合わせ、女性の社会参画を進め、人権や健康や環境が守られる平和な世界を実現する国際NGOです。

## コロナ禍の今、オンラインで思いを分かち合う

去る6月、京都 YWCA の平和・環境活動委員会のしゃべり場「カフェフリーデン」で、コロナ禍での今の思いをオンラインで語り合ってもらい、片岡英子さんにまとめていただきました。

新型コロナウイルス感染拡大への対応として、政府が緊急事態宣言を出してから一カ月余り。私たち平和・環境活動委員会では、コロナへの不安を共有する場を設けるため、6月13日、「コロナ禍の今、思いを分かち合う」というテーマでZoom ミーティングを行なった。この企画の発端は、委員の間で現状に対する不安が蓄積しつつあったからである。京都 YWCA として今できることを考えることも重要だが、私たちが現在直面している不安や戸惑いを分かち合う必要があると感じたのだ。

### 参加者それぞれの事情は多様であった

参加者は平和・環境活動委員会の委員を含め11名。幅広い年齢層の会員が集ったこともあり、参加者で共有した状況は多様であった。例えば公的機関で働いている参加者は、コロナの流行に伴い業務量が増大し、民間企業で働いている参加者は逆に仕事が減少したという。また、医療関連の仕事に従事している参加者からは、医療関係者への差別的な発言への危惧、そして自身への感染リスクのなか YWCA で活動することの不安などが語られた。仕事に就いていない参加者は極端に人との接点が減少してしまうことで、閉塞感や不安を抱えていることを語った。置かれた状況は違えども、参加者の多くは、緊急事態宣言の解除や感染者数の減少をうけて安堵の表情を浮かべていた。この安堵の感情は、6月時点で多くの人が抱いていたものではないだろうか。だが私に関して言うと非常にストレスが多かった時期だった。友人の誘いや YWCA への外出を自分に許していいものか、「会社から何か言われるのでは」などと不安に思っていたからである。

### 不安や考えを分かち合う「場」の大切さを実感

その不安を語ったとき、参加者の方々に思いを受け入れてもらえたことは心の荷がおりるような感覚であった。政府の



対応の問題点を共有したことも大きな成果だった。ドイツなど海外と比較しても日本政府の対応は信頼性に欠け国民の危機感も薄い。そのなかで、経済重視の政府の対策は批判すべきであること、さらに、私たちが「市民」としてアクションを起こしていく必要性も語られた。その他、京都 YWCA が行う対応策への不安を語る参加者もいた。

今回感じたことは、コロナ禍の不安を定期的に共有し受け入れることが、個人間や組織と個人の間の信頼関係を構築する上で重要だということだった。不安や判断の違いを分かち合うことで、私たちは自身のセーフスペースを確保することができる。それは、誰かのためのセーフスペースを作るため、一歩を踏み出す足場作りとも言えるだろう。現在、再び感染者数が増え、鬱屈した思いを抱えている人は多い。そのなかで、何が行なわれているのか、何が捨て去られようとしているのかを見て、しっかりと向き合っていけるようにしたい。そのために、自分を守るための場所のひとつとして今回の企画はなり得たのではないだろうか。 (片岡英子)

## 生きづらさを抱えた若い女性の 「居場所かふえ」

生きづらさを抱えた若い女性への支援を活動の中心に据え、様々な試みをされている「京都わかくさねっと」が、この6月から京都 YWCA で月に数回「居場所かふえ」を実施しています。京都 YWCA 自立援助ホーム「カルーナ」の退所者が主には参加し、集う若者の声を聞きながら、多岐にわたる取り組みを展開中。京都わかくさねっと事務局の北川美里さんより報告いただきました。

### お誕生日会は祝うほうも楽しい！と気付いた

「わかくさカフェ」、8月生まれの人のお誕生会。その日は朝からソワソワ。本人の前では、いつものように素知らぬ顔で昼ご飯を作って食べて、日常の風景。本人がいない間に全員が一致団結して飾り付けを完了。クラッカーの音とハッピーバースディ♪ Sちゃん手作りのケーキ！おばちゃんたちの舞い上がった顔！サプライズは大成功しました。太陽のような8月生まれの人たちに感謝しながら、大いに笑い、喋った一日でした。



### 本音と言える場をつくる

土曜日のうららかふえ運営を手伝い始めたのは、6月からでした。若い少女との交流に最初は戸惑い、何をしようかと悩んでばかりいました。しばらくして、彼女たちから学ぶことの多さに気が付きました。世代

の壁が下がってくると、同じものが見えるようになりました。いまでは失敗談を笑いあえる仲間になりました。

ルールはひとつ。だれもが対等な関係であること。次回の内容も皆で決めます。食事は、豚まん、餃子、冷麺、お寿司。三色丼のはずが、具が増えていって京風五色丼。ワークもコーヒーの淹れ方や浴衣の着付など、誰かのやりたいことを皆でやってみる。これがなかなか面白い。お互いを認める関係の中で、自分の「好き」を見つける機会になればいいなあと思っています。

### 信頼できるおとなになること

京都わかくさねっとは、瀬戸内寂聴さん、村木厚子さんたちが設立した「若草プロジェクト」に共感し、京都で立ち上げた活動です。「人はやさしさの中でこそ、立ち直ることができる」という更生保護の視点から、少女の生活支援と夢の実現をお手伝いする活動です。おひるねの居場所や、こども食堂もしています。いま仲間を募っています。

(北川美里)

## One Camp Asia 2020 アジアの仲間と繋がり、豊かな時間を満喫

8月1～2日の日程で、One Camp Asia が瀬戸内海にある神戸 YMCA 余島野外活動センターで開催されました。京都 YWCA からは私を含め、自立援助ホーム「カルーナ」の現・元利用者、外国にルーツをもつ子の学習支援プログラムの参加者、計5名が参加しました。今年は3回目、何にも縛られることなく、とても自由なキャンプでした。

1日目の午前中は、台北 YWCA、上海などいろいろなところと中継を結び、ビーチクリーニングをしました。海に落ちているゴミを拾いに行き、そのゴミが環境にどんな影響を与えるのか、分解にはどれくらいの年数かかるのかを知り、自分たちには何ができるのかを考えました。本来、余島に台湾などからも集まる予定でしたがコロナの影響により中継という形になりました。少しでも「繋がる」という感覚を持つことができる貴重な時間になりました。

午後はみんなで海に入りました。初めてのカヤック体験では小豆島のエンジェルロードまで漕いで行ったり、水風船を作り投げ合ったり、炎天下の中を長時間おもしろい遊びました。みんな蚊に刺され、真っ赤に焼けながら、1年分の、戸外で普段経験できないことをたくさん経験できました。

2日目は朝も昼も寝ている人、釣りに行く人、だらだるとする人、小豆島から来ていた子どもたちの面倒を見る人など、それぞれ好きなことをして好きな時間を過ごしまし

た。夜には海に行って月や星を眺め、夜の海を楽しみました。また、焚き火をかこみ、歌を歌ったり、コーヒーを飲んだりとのんびり過ごしました。余島の夜は涼しく、鈴虫が鳴いていて、蚊に刺されながらも、マスクなしの開放感に浸りながら、とても心地の良い時間、京都では味わえない時間を過ごしました。

今年は例年と比べて小規模な One Camp となりましたが、それぞれが自由な時を過ごせました。来年、Asia のみんなが参加できる One Camp が開催できることを楽しみにしています。

(山本光)



神戸 YMCA 余島野外活動センターにて



## ベルギーからの便り①

## コロナ禍中の市民の「ソリダリティ」活動



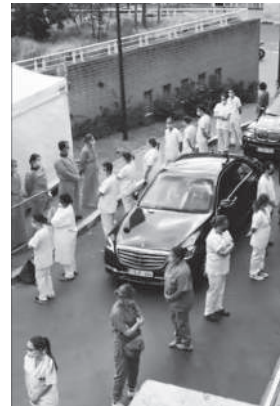
ベルギーにお住いの京都 YWCA 会員の上羽郁子さんが見たヨーロッパ事情をシリーズで報告していただきます。

読者のみなさん、こんにちは。私が住んでいるベルギーも他のヨーロッパ諸国と同様に、都市封鎖で、全てのお店（食料品以外）、文化・スポーツ施設が閉まり、在宅勤務や自宅待機となりました。私も含め、自宅にいる時間が増える者にとって「家の中でじっとしているわけにはいかない！」という気持ちがでてきました。そこで「お互い助け合い」「尊敬」「ソリダリティ（連帯）」の言葉のもと、さまざまな活動が始まりました。最前線で働く人びとへ感謝の気持ちを込め、家の前やベランダにでて一斉に拍手したり、高齢者施設の利用者へのメッセージとしてダンスを踊ったり、音楽を奏でたり。また、あるサッカーチームの青年たちによる、失業者家族への食料配給や、ボランティアによる手作りマスク制作など、それぞれができることをしました。

一方、医療・介護（福祉）施設の職員たちの状況は厳しいものでした。感染を防ぐためのマスクやガウンなどの個人防護具不足、人員不足で、防げたであろう感染が広がってしまいました。そして、感染で亡くなる多くの人たちの姿を見ざるをえない職員たちは、心身ともに疲れ果てていました。

しかし彼らは疲労しているにもかかわらず、人員増加、

給与・労働条件確保を求めて街頭活動にでました。中でも、ブリュッセルにある病院職員たちが、首相が病院を車で訪れてきたときに拍手ではなく、列になって背を向けて迎えたことは、大きなニュースとなりました。その後も組合や市民の動きが継続され、野党の声も届き、政府はとうとう、



改善を求め、訪問した首相の車に背を向ける病院職員たち（ブリュッセル）

医療従事者の賃金引上げと労働条件の確保、人員増加を約束し、予算の増額を決定しました。都市封鎖から約3カ月半後でした。

他にも多くの課題は残りますが、これをきっかけに市民が政府に働きかけることが大きな一歩になったことを改めて実感した人たちも多かったと思います。再感染を防ぐためにも、「全ての人びとに健康の権利」を求めて、ベルギー市民の「ソリダリティ」活動は続きます。

（上羽郁子）

## シリーズ 「あじさい保育園だより」 ②



新型コロナウイルスによる緊急事態宣言後、2カ月にわたり家庭保育にご協力いただきつつ保育を行っていましたが、6月から園児が徐々に再登園し始め、ほぼ全員と顔をあわせることができるようになりました。

7月2日には全園児が集まって初めての行事「七夕の集まり」を持ちました。ホールの黒板には素敵なイラストと歌詞が書かれ、ピアノの伴奏で歌を歌い、笹に飾り付けをしました。保育士たちが心を込めて準備したものです。コロナ禍で「出会いを喜ぶ会」（4月の入園式）さえ一堂に会することができなかったのも、初めて皆が揃ったことに胸が熱くなりました。

あじさい保育園では、保育士以外にも京都 YWCA に関わる多くの方が園児の成長を楽しみにしています。6月から登園時に見守りサポートがされています。「おはようございます！」の挨拶とともに門を開放して園児と保護者を迎えてくださるのは、会館内高齢者住宅サラームにお住いの女性と、多文化ルーツの子どもたち対象のプログラムを支えていただいていた男性。子どもを乗せた自転車はただでさえ幅を取ります。さらに電動付き自転車だと重い！Uターンをしたり自転車を停めたりするだけでも大変なのですが、お二人が朝の門前に立つことで、自転車登園の保護者にとって大変だった門の開け閉めがなくなりました。慌ただしい朝の時間の安全を確保しつつ、お二人とのちょっとしたや

りとりは保育室に入る前の園児に心地よいクッションとなっているようです。

また、開園の何カ月も前から、会館内のうららかふえで開かれる「ちくちくかふえ」の皆さんが布おもちゃを作ってくれました。リアルなスイカやきゅうり、トマトなどに「食べたくなる！」の声が続出。夏野菜が美味しくなる8月に園児への贈呈式を行いました。今度は抱っこ人形のお着替えを作っていただけるとのことです。生き生きとした園児とのやりとり、作り手はパワーを分けてもらっていました。こうした歩みと交わりを少しずつ積み重ねていきたいと思っています。

（岡 佑里子）



作り手を代表して園児に布おもちゃを手渡していただいた方々

## 今後のプログラム

### ◎プチスリフトセール

■日 時：2020年10月17日（土）10：30～14：00

■取扱い物品：洋服（男女大人用秋冬物）、アクセサリー、カバン、帽子、食料品

■対 象：一般

■お願い：自動車・自転車での来場はご遠慮ください。

\*諸般の事情により、内容が変更されることがあります。ご了承ください。

### ◎フードバンクへの協力を始めます

フードバンク「セカンドハーベスト」は安全に食べられるにもかかわらず今まで廃棄されていた食品を集め、支援を必要とする団体等に提供しています。活動を通して、食品ロス削減とフードセーフティネットを両立させる社会インフラのひとつとなることをめざしている団体です。9月から京都YWCAも協力し、ロビーにて食品を集めます。皆さまのご協力をお願いします。

## 「京都 YWCA 未来応援募金」へのご協力をお願い

新型コロナウイルス流行により、京都YWCAが日頃地道に取り組んできた事業が大きく影響を受けています。これを克服して事業を進めていくための「緊急支援募金」を含め、3つの未来応援募金を実施しています。

皆さまからのご支援をお願い申し上げます。

#### ◎未来応援募金——緊急支援募金（目標 150 万円）

新型コロナウイルスの影響を乗り越えていくために。

#### ◎未来応援募金——保育園備品募金（目標 120 万円）

園児の健やかな成長に应运じての備品購入に。

#### ◎未来応援募金——ユース育成募金（目標 80 万円）

国内外のプログラムへの若者の参加支援などによる次世代育成のために。

郵便振替 01080-9-1566

加入者名 公益財団法人京都 YWCA

\*通信欄に未来応援募金の中の指定する募金名をご記入ください。京都 YWCA へのご寄付の詳細は事務所に問い合わせてください。か、ホームページをご覧ください。

<http://kyoto.ywca.or.jp/support>

#### 遺贈のご案内

生前にご遺産の一部を寄付されることをお約束いただく制度です。女性と子どものエンパワメントをめざす京都 YWCA の事業への賛同のご意志が、未来にひきつがれます。



おすすめ！



### 映画『ハリエット』

（2019年アメリカ/日本公開は2020年6月）

“Freedom or death”—この言葉がいつでも耳に残る。ハリエット・タブマン、アメリカでは誰もが知るという奴隷解放運動家の生涯を描いた映画である。1849年主人の借金返済のため南部に売られそうになったミンティ（ハリエット）は、奴隷制が廃止されたフィラデルフィアをめざして、主人の追手に追いつめられな

がら約160キロを歩き続け、奴隷制廃止論者や北部諸州の市民（白人や自由黒人）たちによる奴隷解放組織「地下鉄道」にたどり着く。「ハリエット」は新しい自由な身になった人間としてこの時自分でつけた名前である。この「地下鉄道」の「車掌」として、約10年間南部から北部アメリカやカナダへ300人余りの奴隷の逃亡を手助けし、その後も女性や奴隷の権利のために活動し続けた。

折しも今年5月、黒人男性のジョージ・フロイド氏が白人の警察官に喉を押さえつけられ亡くなる事件があり、“#Black Lives Matter”として世界中に抗議が広がった。“Freedom or death”は今なお大きな課題としてあることを感じた。（編集部）

## ご協力ありがとうございました

2020年6月1日から2020年7月31日 寄付者一覧（敬称略、順不同）

#### 一般寄付

松井郁子、浅野献一

#### 各指定寄付

##### \*未来応援募金

奥村孝、小室京子、池上信子

##### \*多文化共生委員会

浅野献一、高橋正子、須永絹佳

##### \*APT

筒井奈都子、上内鏡子、西原美那子

##### \*うららかふえ

宮武美知子

##### \*あじさい保育園

浅野献一、安藤いづみ

#### \*自立援助ホーム「カルーナ」

児玉涼子、実生律子、手島千景、小林裕彦、浅野献一、竹内二三、筒井奈都子、齋藤大輔、辻川さとみ、猿橋靖、石田裕明、小泉小枝、西村由里、井上依子、奥村孝、今村武廣、小宮一子、小寺敬子、上田理恵子、大手理絵、中野加奈子、都木かおり、飯田融子、有田佳子、齋藤常子、匿名、京都わかさねっと、国際ソロプチミスト京都北山

#### \*賛助費

窪田左知己、小室京子

## 7・8月／理事会報告

- 新型コロナウイルスに対する感染予防措置をとりながら「親と子のリズムあそび」、にほんご教室、語学クラスなどを再開。
- うららかふえは8月以降は会館居住者や予約者向けにランチを提供。
- 2019年度の決算確認および新型コロナウイルスの2020年度事業への影響を検討した。
- 居場所事業委員会では、多様な対象（ユース、子育て支援、多文化、高齢者、地域、ボランティア）を想定した居場所プログラムを検討中。

- 京都わかさねっと主催で、うららかふえスペース等を利用して、自立援助ホーム「カルーナ」利用者・退所者向けプログラムおよび若者の「居場所」プログラムを実施している。
- 保育園事業部委員会が始動。YWCAの活動を保育園に組み込んでいくプログラムを検討している。毎月2回の出前読み語りを開始しており、11月に「キッズフェスタ」を予定。
- 8/1に高齢者住宅サラムの夏の交流会として留学生を交えた映画会を実施。

KYOTO YWCA No.558 2020年9月号（9月1日発行）

発行人：上村敏巳子

発行所：公益財団法人京都 YWCA

〒602-8019

京都市上京区室町通水上ル近衛町44

電話：(075) 431-0351

FAX：(075) 431-0352

e-mail：office@kyoto.ywca.or.jp

HP：http://kyoto.ywca.or.jp

郵便振替：01080-9-1566

口座名義：(公財) 京都 YWCA

定 価：1部 50円

発 行：奇数月 1日発行